

路地百選推薦書

推薦者氏名：鈴木 隆男

推薦する路地（のまち）の名称	あけぼの町飲食店街
所在地	山形県新庄市若葉町 16

【推薦する理由（路地のよいところ）】

「あけぼの町」は、長い歴史を持つ新庄一の大飲食店街である。この「あけぼの町」のシンボルがアーチ型の大看板で、看板の高さ 5m のところに「あけぼの町飲食店街」の文字が大きく横書きされている。看板の上部に各酒造・ビールメーカーの広告が設置されていて、夜間はライトがとり、照明の役割も担っている。このアーチ型の看板は、不思議なアーチとして、テレビでも取材されたことがある。この時は、駅前通りから撮って前を行く車が、このアーチをくぐって向こうの通りに出ているように見えている。道路にまたがって建っていると思われたアーチは、実はお店の前、道路に平行に建っている。推測ではあるが、建築基準や交通安全規則などで道路を跨いで建てるのが許可されなかったと思われる。



上：あけぼの町飲食店街のアーチ
 右上：共同トイレ
 左上と左：中心部の路地
 右：赤ちょうちんのある路地

路地	面積	約 ha	路地の延長	約 m
まちの成り立ち、特色等概要	まちの成り立ち、特色等	新庄市で一番賑やかな飲食店街である「あけぼの町マーケット」の誕生は、敗戦直後の物資不足の混乱の中の闇市に遡ることができる。新庄の闇市場は、敗戦直後、元の大正小路にできたのが最初で、空襲に備えて強制疎開させられた跡に店小屋が作られた。その後、変遷を重ね昭和 29 年、都市計画や不法占有の問題などの理由で、露天商の撤去命令が出された。当時の露天商組合長は、100 人近い露天商の生活にかかわることから、その解決に奔走しました。そして、撤去期限の新庄祭りの終わる 8 月 31 日までに立ち退くことを約束して、代替地を請願した。その結果、現在の若葉町＝通称「曙町」の土地（マーケット敷地）が当てられた。当初は衣料品や日用品の店、飲食店など様々な店があり繁盛したが、物不足の時代が終わると、曙町は居酒屋などの飲食店街として賑わうようになった。		

※路地のまちの概要は記入できる範囲で結構です。それぞれの枠の大きさは各自で調整願います。